

厳しかった冬の寒さも和らぎ春の訪れを感じるこの良き日に、六十二回生の皆様がご卒業を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

今、この体育館に座っていらっしゃる先輩方を見ると、五年間駒東生活をこの学舎で過ごしてきた一人として、自然と一抹の寂しさを感じてしまいますが、先輩方がこの学校、そして我々後輩に尽くして下さった数々の御恩への感謝の思いがこみ上げてくるばかりです。

二〇一六年四月、私たちは駒場東邦第六十三回生として入学しました。当時中学二年生の先輩方は、まだ何もかもが新鮮で学校生活に不慣れであった私たちに、気兼ねなく、そして優しく接して下さいました。部活動でのご活躍も然ることながら、先輩方の研究旅行の優秀論文や発表も素晴らしく、大変参考にさせて頂いたこともあります。部活動や生徒会活動では、大変お世話になりましたし、幹部学年となる私たちに対して、運営面について丁寧に教えて下さいました。今の自分が卒業式の送辞を務めるほどの立場となることが出来たのは、先輩方が常に私たちを支えて下さったお陰です。

昨年の春、新型コロナウイルスが日本全土を襲いました。二〇二一年の受験を控えた先輩方にとっては、長期間の休校や体育祭の中止など従来の学校生活が崩れたりスケジュールが乱れたり、非常に大変な一年であったかと

思います。そのような中でも、図書室での自習や職員室前での先生方への質問など、先輩方が学業に励み懸命に努力なさる姿を見ると、自分たちが幹部学年として責任を持ち、感染症対策という制限が伴うこの難局に立ち向かうという勇気が、芽生えてきたものです。また、昨年冬以降は受験勉強を本格的に意識することとなった私たちにも大きな刺激を与えて下さいました。

駒場東邦には、過酷な中学受験を乗り越えた、毎年約二四〇人の生徒が入学します。定員に限界がある中、そう簡単に先輩方とお会いすることは出来ませんが、こうして先輩方と出会えたことは誠に嬉しい限りです。此処に先輩方との御縁を感じずにはいられません。同じ時代を駒場東邦という最高の学校で過ごしたという絆は、先輩方がこの校舎を築かれた後も、未来永劫に続くであろうと信じています。

本日は新型コロナウイルスの影響で、在校生は私のみの参加となりましたが、在校生を代表して、先輩方に深い尊敬の念を以て、今までの感謝をお伝え申し上げます。そして在校生の私たちは、先輩方が築いて下さった駒場東邦の歴史や伝統を堅守し、この学校の発展に寄与していくことを、お約束致します。

最後となりましたが、先輩方の今後のご活躍とご発展を祈念して、送辞とさせていただきます。

令和三年三月六日 在校生代表 安部 俊太郎